

研究教育の場は閉じた空間ではない。地域社会へ開かれた、活動の場でありたい。

社会貢献・男女共同参画

杜の都女性科学者ハードリング支援事業 理系白書シンポジウムin仙台



東北大学が実施している次世代支援プログラムの一つ、サイエンス・エンジェル制度。サイエンス・エンジェル(SA)は、東北大学自然科学部局に在籍する女子大学院生から構成され、研究者を志す女子学生の身近なロールモデルとなり、博士課程進学的女子学生支援などを行っている。

2006年12月、東北大学川内北キャンパスで「理系白書シンポジウムin仙台」を毎日新聞社と共催で開催。午前中のワークショップで、51名の女子高生と18名のSAが意見交換したあと、午後のシンポジウムで4名の女性科学者とさらにディスカッションを重ねた。

市民と語り合いながらサイエンスカフェ、継続中

「コーヒーを片手に、科学について研究者と市民が気軽に語り合う」という趣旨で始まったサイエンスカフェ。2005年8月、東北大学の新しい社会貢献の一環として、全国の大学に先駆けて開催し、現在も継続中。市民の学びの場であるせんだいメディアテークで月に1回、平日の夜に実施している。誰でもその場で参加できるという自由な雰囲気。未来へ走る科学と、未来を担う次世代が、次々と新しいステージを創出している。

また、宮城県ケーブルテレビ協議会の協力により、毎月、宮城県内のケーブルテレビネットワークで、地域情報番組としても発信している。



東北大学病院の高度化・高機能化に向けて、 高度救命救急センター・新病棟・けんこう情報館がオープン

東北大学病院の新病棟が、星陵地区に完成した。この新病棟は地下2階・地上18階、最大1,308人の入院患者を受け入れることができ、国立大学病院の単体病棟としては国内最大級の規模を誇る。東病棟には、宮城県と仙台市からの支援を受けて高度救命救急センターを設置。また、屋上にはヘリポートも開設されるなど、迅速な対応が求められる重度の救急患者を受け入れる体制が整えられた。さらに、外来棟1階に、病気に関する学習をサポートする場として「けんこう情報館」もオープン。地域の健康・医療を担う病院機能の高度化・高機能化が図られた。



地域とともにチャレンジ防災講座

大学院工学研究科附属災害制御センターでは、自主ゼミの一環として2002年度から「地域防災ゼミ」を実施。そして、2006年度から市民公開講座「チャレンジ防災講座」としてエル・パーク仙台で開催している。現在、地域の主体となる「学校」と「地域」が協力して、地域の安全をいかに確保すべきかをディスカッションする場として、大学内外、専門分野を問わず広く一般にも門戸を開いている。

Topics

東北大学100周年記念仙台セミナー

東北大学の最先端の研究成果を社会に還元するため2006年12月、100周年キャンペーンの一環として、河北新報社と共催で仙台セミナーを仙台国際センターで開催した。参加者は約1,000名。セミナーでは健康をテーマに「先端科学の挑戦—『健康で長生き』を目指して」と題し、科学技術は人々のくらしと健康についてどのように貢献できるかをわかりやすく地域に発信した。

